

様式第2号(その3)

| 授 業 科 目 の 概 要 | | | |
|-------------------------|----------|---|----|
| (大学院医療福祉学研究科臨床心理学専攻(M)) | | | |
| 科目区分 | 授業科目の名称 | 講義等の内容 | 備考 |
| 共通科目 | 医療福祉倫理特論 | <p>医療、福祉の世界に存在する非倫理に気づく感受性を研ぎ澄ます。その上で、それを改革するための方法論や強さを身につける。そのために、様々な分野で現場を変えてきたゲスト講師をお招きし、その体験の中からも学ぶ。</p> <p>授業内容は以下の通りである。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.オリエンテーション 2.インフォームド・コンセントとノーマライゼーション 3.脳死と臓器移植の倫理 4.精神医療と福祉の倫理 5.高齢者医療と福祉の倫理 6.医療事故と真実告知の倫理 7.「内部告発」の倫理 8.ソーシャルアクション 9.臨床試験の倫理 10.ボランティアの倫理 11.医療アクセスの倫理 12.誇りと尊厳の倫理 13.まとめ | |
| 共通科目 | 医療関連法律論 | <p>本講義では、社会保障のそれぞれの分野でどのような法律があり、どのような内容であるかを解説し、それが相互にどのように関連しあっているかについて説明する。そして、今後これらの法律がどのような視点から見直されようとしているかについても言及する。</p> <p>授業内容は以下の通りである。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.講義の目的とその進め方 社会保障の発展とその変遷 2.社会保障と法律体系 3.社会保障の発展と法律の整備 4.社会福祉サービスの法律体系とその内容 5.年金の法律体系とその内容 6.保健医療の法律体系とその内容 7. " 8.労働者福祉の法律体系とその内容 9.社会保障の法律を巡る訴訟 10.最近の法律改正の概要 11. " 12.これからの社会保障の課題 13.まとめ | |

| 科目区分 | 授業科目の名称 | 講義等の内容 | 備考 |
|------|----------|---|----|
| 共通科目 | 医療福祉情報特論 | <p>日本の医療・福祉の情報化のトピックから、診療報酬請求、電子カルテ、遠隔医療をとりあげ、講義する。授業内容は以下の通りである。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 今、医療情報の世界で何が起こっていて、何が問題なのか 2. 病院及び診断所の情報システムの現状と課題 3. 電子カルテに関する技術的な問題 4. 電子カルテと病院経営 5. 電子カルテ利用の事例 6. 診療報酬請求システムの実情と展望 オンライン化の持つ意義 7. 診療報酬オンライン化の問題 医療機関、支払基金、産業界 8. 診療報酬請求をめぐる政策的課題 9. 診療報酬請求データの利用 10. 遠隔医療の現状 11. 遠隔病理診断 12. 医療IT化に関する国の施策 13. まとめと総合討議 | |
| 共通科目 | 医療経営特論 | <p>社会保障制度は、医療福祉サービスの特性を踏まえて構築されていること、当該制度設計を踏まえた医療経営の仕組み、そして経営上の大きな課題となるであろう法人制度・品質管理・資金調達等の問題を理解することを目的とする。授業内容は以下の通りである。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 「オリエンテーション」 講義内容の紹介と質疑応答 2. 「わが国の医療福祉経営を取り巻く環境」 制度改革の内容とその影響 3. 「医療福祉サービスの特性と医療保険制度」 医療サービスの特性 4. 「わが国の医療提供体制と病院・診療所の現状」 病院の類型や機能の紹介 5. 「医療経営と患者獲得競争の関係」 患者の病院選択行動について 6. 「非営利性と医療法人制度の概要」 医療法人制度とその背景にある仕組み 7. 「医療の品質管理と病院経営」 医療サービスの品質管理の手法 8. 「医療機能評価の概要」 医療機能評価機構の設立の背景と評価手法 9. 「病院の資金調達とその課題」 病院の資金需要と新しい資金調達手法 10. 「介護保険の仕組みと医療経営の課題」 病院の介護分野への進出状況 11. 「医療経営における今後の重要課題について」 株式会社参入・混合診療問題 12. 「新しい医療計画制度の内容」 改正内容や経営への影響 13. 「今後の病院経営の課題」 | |

| 科目区分 | 授業科目の名称 | 講義等の内容 | 備考 |
|------|------------------|---|----|
| 共通科目 | 社会福祉学特論 | <p>社会福祉学の基礎、制度の本質を最新の制度改革の動向などもふまえて講義する。授業内容は以下の通りである。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.社会福祉とは何か(その概念、対象、目的、主体、機能) 2.社会福祉事業が成立する条件(外部環境、関連領域) 3.わが国における社会福祉事業の歴史 4.社会福祉法則、近年における制度改革の動向と問題点 5.社会福祉行政の機構、財源、社会福祉サービス利用の仕組み 6.社会福祉事業の主体(社会福祉法人、NPO、他)、社会福祉活動 7.社会福祉専門職資格、養成、援助技術、援助原則、倫理 8.高齢者福祉・障害者福祉の現状と課題 9.子どもの課程福祉の現状と課題 10.授業総括(レポートの発表、まとめ、提出) | |
| 専門科目 | コア科目 臨床心理学特論Ⅰ | <p>本講義は、臨床心理学の総論的な理解をめざす。とくに、臨床心理学の理論的な枠組みと対象、心理診断と治療について、社会的問題・文化的問題と絡めながら講義をおこなう。具体的には、自己理論・人格理論・発達理論・行動理論・認知理論・状況理論について概観するとともに、各理論から発展して生まれてきた心理療法について紹介をおこなう。心理療法は、面接法・家族療法・集団療法といった大まかな枠組みを概観する。</p> | |
| 専門科目 | コア科目 臨床心理学特論Ⅱ | <p>臨床心理学特論Ⅰで学んだ各理論が、具体的にどのような心理技法に発展していったのか概観する。具体的には、1)精神分析、2)行動療法、3)認知療法、4)来談者中心療法、5)遊戯療法といった、世界的に幅広く実施されている心理療法について詳しく取り上げ、臨床実践例を交えながら、心理臨床の実際について講義をおこなう。さらに、臨床心理学の様々な領域における事例研究を紹介し、臨床心理学の特徴と問題点や限界についても考えを深めていく。</p> | |

| 科目区分 | | 授業科目の名称 | 講義等の内容 | 備考 |
|------|------|-----------|---|----|
| 専門科目 | コア科目 | 臨床心理面接特論Ⅰ | 臨床心理面接とは何か、その基本について学ぶ。いわゆる「カウンセリング」によるクライアントの理解の方法について、理論と実際の両面から学習する。講義内容としては、1)心理面接の態度、2)基本的かかわり技法の原則、3)傾聴の仕方、4)明確化、5)感情の反映、6)非言語的やりとり、7)要約技法等について詳細にとりあげる。さらに、ビデオ教材での学習やロールプレイなどを授業に盛り込むことで、カウンセラーとクライアントの人間関係や、カウンセリングの効用と限界について深く考察していく。 | |
| 専門科目 | コア科目 | 臨床心理面接特論Ⅱ | 臨床心理面接特論Ⅰで学んだカウンセリングの原則をもとに、実際の具体的事例を取り上げながら理解を深める。とくに、カウンセリングにおけるクライアントの理解とパーソナリティの変容について、理論的・体系的にまとめて講義をおこなう。具体的には、1)カウンセリングでなにが変わるのか、2)その変化のプロセス、3)カウンセリングにおける人間関係の変化に着目することで、心理面接の理解を深める。講義の他にも、ロールプレイでの体験を通じてクライアントへの共感の方法論や態度について学んでいく。 | |
| 専門科目 | コア科目 | 臨床心理査定演習 | 臨床場面で使用される様々な臨床心理検査について学ぶ。本演習では、各検査の特徴、施行方法、結果の出し方、所見の書き方の演習、およびテストバッテリーの組み方と検査の実施を、2～3名がグループとなっておこなう。具体的な検査としては、1)能力検査(発達検査、知能検査、視知覚検査、言語性能力検査、社会性能力検査、特定障害を対象とする検査)と、2)パーソナリティ検査(質問紙法による検査、投影法による検査)を取り扱う。また、本学附属三田病院において実際に検査を実施し、結果の解釈をおこない、所見を書く。また、施行時の検査者の態度や解釈、所見の内容について、ディスカッションをおこなう。 | |
| 専門科目 | コア科目 | 臨床心理基礎実習 | 本学附属三田病院にて、LDおよびADHDや高機能自閉症とその周辺の発達障害、いじめや虐待や不登校などの社会行動の障害、母子関係の問題、心身症その他の症例に関して、心理臨床の基礎的訓練をおこなう。具体的には、1)実習の心得、倫理規定に関する心構えの習得、2)予診のとりかた、初回面接、行動観察などの実際的指導、3)個別心理療法、心理査定の観察、4)病院スタッフがおこなうケースカンファレンスへの参加、という流れで実習をおこなう。 | |

| 科目区分 | | 授業科目の名称 | 講義等の内容 | 備考 |
|------|------|-----------|---|----|
| 専門科目 | コア科目 | 臨床心理実習 | 本実習では、主に発達障害児、情緒障害児と直接対応することによって、臨床の基礎訓練をおこなう。また、母親をはじめとする保護者との対応についても、実際に学ぶことを目的としている。具体的には、本学附属三田病院に定期的に通って個別ケースを受け持ち、実際に診断計画を立て、対応し、事後記録をとる。さらに、ケースカンファレンスにて症例を提示し、毎回検討会をおこなう。また、査定を要するクライアントを対象に、行動観察、臨床心理諸検査を実施する。 | |
| 専門科目 | コア科目 | 臨床心理学特別研究 | 修士の学位論文の作成に必要な指導(研究指導)を行う。修士論文の題目の選定に至るまでの資料探索、問題の設定、問題への接近方法、これまでの研究動向、問題の展開、事例検討、考察、今後の研究の方向等について指導する。また、修士論文作成について、研究内容、研究方法、論文作法等の各方面から指導する。 専任教員全員が担当し、学生は自己の研究分野により研究指導教員、研究指導補助教員を選択する。 | |
| 専門科目 | コア科目 | 基礎心理学特論Ⅰ | 本講義では、実践的な臨床心理学を学ぶために最低限必要な基礎的心理学の理論について概説をおこなう。具体的には、心理学の3大学派とよばれる①行動主義論、②認知主義論、③状況主義論についてのオーソドックスな研究例を挙げながら解説をおこない、知識の構造的定着をはかるとともに、「科学」としての心理学が今後どのような課題を残しているのか、どのような研究が必要とされているのかといった諸問題について議論をおこなう。 | |
| 専門科目 | コア科目 | 基礎心理学特論Ⅱ | 本講義では、知覚、学習、記憶、情動、知能、言語、思考という認知心理学の代表的な領域について概説する。具体的には、1)注意のモデルと情報処理、2)記憶と学習のメカニズム、3)情動の諸理論、4)知能の定義と分類、5)言語獲得の諸理論、6)思考と問題解決、の講義をおこなう。また、障害児支援の実践例を挙げながら、認知心理学の考えと現実場面で生じる発達障害児などの問題行動や学習行動、人間関係形成の障害との関係について考察する。 | |

| 科目区分 | | 授業科目の名称 | 講義等の内容 | 備考 |
|------|------|------------|---|----|
| 専門科目 | コア科目 | 応用臨床心理学特論 | <p>本講では、近年アメリカを中心に注目され、その有用性から高い支持を得ている「自己心理学」の考え方について概論と、特に医療現場や高齢者介護などでいかにそれを応用できるかについての議論と解説をおこなう。また、従来の精神分析との比較をおこなうことで、精神分析に関するより深い理解を促すことを目的としている。</p> <p>講義内容としては、1)精神分析と自己心理学の基礎理論、2)自己心理学の基本概念とその一般心理、体や心の衰えたものへの応用可能性3)心理的依存の現在の意義、4)自己愛の障害、5)自己愛の治療プロセスという観点からの、身体疾患や老化への対処法と受容の5つを中軸とする。一般病棟や介護施設における心の治療法としての自己心理学(ほかの精神療法理論の紹介も行う予定)の実践的な活用手法を提示する。</p> | |
| 専門科目 | コア科目 | 力動精神分析学特論 | <p>力動精神分析は、発達論、人格論、病態論、円説技法論を含んでおり、心理臨床の基礎として有用である。本講義では、まず精神分析の基本的な見地として、局所論、構造論、不安と防衛論、発達と退行論について概観する。さらに、セラピストとクライアントの関係におきる転移、逆転移、抵抗、終結の実際について、実際のケースを紹介しながら説明をおこなう。また、対象関係論の立場から、ウィニコットの母子関係論と心理療法画面におけるセラピストクライアント関係についても触れ、精神分析への理解を深める。</p> | |
| 専門科目 | A群 | 心理学研究法特論 | <p>心理学研究法の基礎知識について講義をおこなう。臨床心理学分野での研究計画の立て方、実証の方法、論文の書き方の習得を目的とする。広く人間科学の分野における心理学的研究法の基礎について学び、さらに、数量的研究、事例研究、フィールドワーク、実験研究など様々な研究論文を講読していく。その上で、臨床心理学における研究法の特徴を理解し、研究論文を作成していく具体的方法について学習する。また、研究法と心理統計法の関連について理解することも課題とする。</p> | |
| 専門科目 | A群 | 臨床心理学研究法特論 | <p>これまでの臨床心理学研究を概観しつつ、今後の研究法の多様性および可能性について検討する。臨床心理学の研究対象としては心理治療・援助方法、心理アセスメントに大別される。それぞれの研究対象に適した研究法を紹介するとともに、具体的な研究法について取り上げ、その実際の運用について検討する。授業の構成としては、まず臨床心理学研究の歴史と動向について概観し、次いで、臨床心理学研究の多様性と可能性についてまとめる。さらに、臨床心理学の事例研究および調査研究を読み、具体的な研究手法について講義をおこなう。</p> | |

| 科目区分 | | 授業科目の名称 | 講義等の内容 | 備考 |
|------|----|---------|--|----|
| 専門科目 | B群 | 発達心理学特論 | 人間の受精から死にいたるまでの生涯発達的な変化を、心理学の立場から考察する。発達心理学とはなにか、どのような歴史を持ち発展してきたか、どのような研究領域がありそこでなにが明らかになってきたかについて概観する。主として、1) 人格の発達、2) 社会性の発達、3) 知能と言葉の発達、4) 脳とこころの発達の4領域にわたって、胎児期、乳幼児期、児童期、青年期、成人期、老年期を対象として学んでいく。また、発達心理学と臨床心理学の接点についても触れ、臨床場面でどのように生かされるのか考察する。 | |
| 専門科目 | B群 | 大脳生理学特論 | 本講義は、神経系の機能を多様な心理現象と関連づけながら見ていくことで、人間の心理と行動についての理解を深めることを目的とする。特に、知覚・認知などの基礎的な機能や言語・コミュニケーションのような高次な機能と脳神経系の関係に関する知見を取り上げる。具体的には、1) 脳と記憶、2) 脳と視覚、3) 脳と言語、4) 脳とコミュニケーション、5) 脳と情動、の5分野にわたって講義をおこなう。さらに、アルツハイマーや若年性健忘症といった病理のメカニズムについて、大脳生理学的な知見から考察するとともに、具体的な臨床例を挙げて紹介する。 | |
| 専門科目 | B群 | 教育心理学特論 | 学校場面での教授・学習過程を中心として、学校で生じる様々な問題に、心理学的にいかにかアプローチするかをめぐって討論する。学ぶ主体である子どもについて多様な角度から理解するのはもちろんとして、学校という制度や、その社会、文化的背景にも目を向けていく。また、教育の場で生じる様々な具体的問題、たとえば発達に困難を抱える子どもや、無気力状態の子どもに、教育心理学がどのように役立つのか考察する。また、教育心理学的な考え方を臨床心理の場でどのように役立てるのかということにも触れ、実践例についてディスカッションしながら理解を深めていく。 | |

| 科目区分 | | 授業科目の名称 | 講義等の内容 | 備考 |
|------|----|---------|---|----|
| 専門科目 | C群 | 社会心理学特論 | 社会心理学の代表的な領域について概観する。受講者が日常経験と結びつけて理解できるよう、現実の社会生活に関連した研究例を紹介しながら講義をすすめていく。具体的には、1) 自己概念、2) 対人認知、3) 社会的認知、4) 対人コミュニケーション、5) 態度の形成と変容、の5領域にわたって概観をおこなう。また、社会心理学と臨床心理学の接点についても考察し、心理療法の場面でどのように社会心理学が活用しうるか明らかにする。また、近年盛んになってきた臨床社会心理学の考え方についても触れる。 | |
| 専門科目 | C群 | 犯罪心理学特論 | 犯罪や非行とは何かについて、犯罪・非行の研究や、現代における犯罪・非行研究を例に挙げながら講義する。具体的には、1) 犯罪・非行の人格要因と環境要因、2) 犯罪・非行の類型論、3) 犯罪・非行の発生過程、4) 司法精神医学と精神保健・矯正精神医学について網羅し、犯罪・非行の予防および対策について探る。また、被害者の臨床心理士としての、加害者・被害者への精神的支援のありかたについて触れるとともに、PTSDに代表される心的外傷などの病理との関連についても、具体的な臨床例を挙げながら講義をおこなう。 | |
| 専門科目 | D群 | 精神医学特論 | 心理療法を施すにあたって身につけておかなければならない、精神医学の基礎的知識について講義をおこなう。まず、人類の歴史の中で、精神疾患に対する考え方がどのように変遷してきたかということ概説し、つぎに、精神医学が科学として持つ特異性について考察する。具体的には、診断マニュアルであるDMS-IVやICD-10について触れながら、精神疾患の分類と診断基準について概説する。また、発病のプロセスや原因、予後についても、医学的な視点から概観をおこなう。 | |
| 専門科目 | D群 | 老年心理学特論 | 高齢社会を迎え、発達心理学や臨床心理学の研究や実践の中で、高齢者に関する課題が注目されている。本講義では、生涯発達の視点を基盤として、老年期の心理学的特徴や心理機能の加齢変化について理解を深めることを目的とする。講義では、はじめに、高齢社会の特質について述べ、老年心理学研究の基本的枠組みについて考察する。次いで、心理学諸側面の機能の加齢変化について紹介し、認知症、うつ病、自殺などの心理臨床的問題と対応に関して概説する。また、生きがいや死生観などの老年心理学に特徴的な課題と、高齢者のパーソナリティ、知能の加齢変化との関連についても講義をおこなう。 | |

| 科目区分 | | 授業科目の名称 | 講義等の内容 | 備考 |
|------|----|-------------|---|----|
| 専門科目 | D群 | 障害者(児)心理学特論 | 障害者(児)のとらえ方は、以前と比べて変化している。従来は、知覚障害、視覚障害、聴覚障害、運動障害、情緒障害のある者が障害児として、福祉・心理・医療の対象とされていた。しかしこの数十年來の間に、知的障害の少ない、認知能力の偏りや行動のアンバランスさを示す子どもたち、すなわち軽度発達障害もまた、配慮の必要な子どもたちとして公教育でその対応が考えられ実際化するようになった。たとえば、学習障害や注意欠陥多動性障害、高機能自閉症がこれに該当する。本講では、この軽度発達障害と、従來の障害者(児)とのつながりを踏まえて、発達障害を多面的に概説していく。 | |
| 専門科目 | D群 | 精神薬理学特論 | 精神薬理学の進歩は、うつ病や統合失調症など、数々の精神科疾患の治療を飛躍的に向上させたばかりでなく、その生物学的な成因を解明する上でも大きな貢献を果たしている。それはまた、情動、学習、記憶といった心理学的構成概念の実体化に向けた歩みともいえる。本講義では、精神薬理学全般の基礎知識に加え、その最新の知見について教授する。具体的には、1) 化学的神経伝達のしくみ、2) 依存性薬物と薬物依存、2) 作用機序、3) うつ病と抗うつ薬、4) 不安と不安薬・睡眠薬などについて、講義をおこなう。 | |
| 専門科目 | E群 | 心理療法特論 | 臨床心理学領域では、子育て問題、児童虐待、いじめ問題、不登校、家庭内暴力、ストーカー問題など多種多様な問題が持ち込まれる。本講義ではこのような問題をどのように理解し、どう対処していったらよいのかというケース検討を通して、心理療法の効用と限界について考察する。授業前半においては、精神分析や認知行動療法などの主な心理療法について網羅的に説明をおこない、次いで後半からは、実際にその心理療法を用いた事例の紹介と、それを題材としたディスカッションをおこない、心理療法の理解を深める。 | |
| 専門科目 | E群 | 学校臨床心理学特論 | 学校心理士・および臨床心理士としてのスクールカウンセリングの実際を、事例研究を中心に学ぶことを目的とする。また、学校という場でとくに多く用いられる技法についてとりあげ、不登校や「ひきこもり」といった、青年期特有の病理との関連を考えていく。具体的には、スクールカウンセリングにおける1) クライアント中心療法、2) 箱庭療法、3) 夢分析、4) ロールプレイ、5) イメージ療法について実践例を挙げながら講義をおこない、学校における臨床心理士の役割および限界点・さらに校内システムおよび教師と野連携について探っていく。 | |

| 科目区分 | | 授業科目の名称 | 講義等の内容 | 備考 |
|------|----|---------|--|----|
| 専門科目 | E群 | 投影法特論 | <p>投影法のテストの中で、主にロールシャッハテストを取り上げ、その特性を検討する。また、SCTやTATなど、ほかの投影法検査との比較をおこなうことで、人格理解の様々な次元や側面を学習する。授業構成としては、1) テスト反応の体験、2) 技法論、3) 技法実習、4) テスト施行演習、5) スコアリング演習、の5つの柱を軸とし、ロールシャッハテストの実践的スキルを修得することを目指す。また、片口式と包括システムを比較することで、ロールシャッハテストの深い理解をうながす。</p> | |